

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学拠点連携校共通						
教育プログラム・コース名	連携7校共通：口腔がん・がん口腔支持療法に携わる医療者養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	歯科医師、歯科衛生士、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語療法士など						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	①口腔がんをはじめとする口腔疾患の病態と治療を理解し、多職種と連携して適切な医療を提供できる人材 ②がん治療に対する口腔の有害事象・合併症の病態等の知識を有し、多職種と連携して、適切な、がん口腔支持療法を提供できる人材						
修了要件・履修方法	所定の講義・実習を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	①口腔マネジメント総論、・口腔の特殊性（機能、生理、解剖：歯の名称、顎機能（そしゃく）、唾液、嚥下、発音）、・全身から生じる様々な口腔内症状、・う蝕、歯周病をはじめとした歯科治療および周術期口腔健康管理の理解、②口腔マネジメント各論、・口腔がんの特徴、がん患者の周術期口腔健康管理とその実際（外科療法、放射線療法、がん薬物療法）、・嚥下リハビリテーションの手技と理解、・栄養療法の基礎と口腔管理（NSTでの役割、口腔ケアと食べるための口づくり）、・口腔がん術後患者の生活の質向上にむけた取り組み（リハビリテーションと顎補綴、顎顔面インプラント）、・終末期患者に対する歯科的介入、・症例検討会						
がんに関する専門資格との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日本口腔外科学会認定医・専門医・指導医の研修施設認定 ・口腔がん専門医（日本口腔腫瘍学会）の研修施設認定 ・がん治療認定医（口腔外科）（日本がん治療認定医機構）の研修施設認定 ・摂食機能療法専門医（日本老年歯科医学会） ・摂食嚥下リハビリテーション認定士（日本摂食嚥下リハビリテーション学会） ・口腔ケア認定師（日本口腔ケア学会） ・医科歯科連携、口腔機能管理 認定歯科衛生士（日本歯科衛生士会）の研修施設認定 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん口腔支持療法は、近年ますますその重要性が認識されてきているが、多職種と連携してそれを適切に実践できる人材の教育プログラムは存在していなかった。本プログラムは、歯科医学の基本に対する多職種の共通理解をもとに、相互の連携を意識し、症例検討会をも含め、総合的に学習できる構成となっている。がん医療の分野に多職種を対象とした、歯科医学の教育カリキュラムを導入した点が本プログラムの特色といえる。						
指導体制	東京医科歯科大学および連携大学の医師、歯科医師、歯科衛生士が中心となり、学内外の各分野の専門家による講義・実習による指導を多職種を対象として行う。						
修了者の進路・キャリアパス	がん口腔支持療法を必要とするがん治療施設において先進的な主導を果たすことのできる歯科、口腔外科等。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	20	20	20	20	20	100
受入目標人数設定の考え方・根拠	東京医科歯科大学および連携大学において、がん治療に携わる歯科医師、歯科衛生士は例年合計10名程度大学院に入学あるいは病院に入職する。さらに本インテンシブコースを受講する多職種が10名（医師1名、看護師4名、管理栄養士2名、言語療法士2名、薬剤師1名）程度は見込まれるため。						
履修者数 <small>※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0